



『進化』し続ける」ということ

校長 杉林 正敏

私は赴任して以来2年間、『進化』し続ける西高を表看板に掲げてきました。学校ホームページ冒頭にも学校グランドデザインにも、この言葉を使うとともに、私自身常に西高の「進化」を意識してきたつもりです。

そこには、西高が「進化」し続けるとともに、西高生にも「進化」し続けてほしいという願いを込めています。

昔の中国に「男子三日会われれば刮目（かつもく）してみよ」ということわざがあります。「刮目」とは「目をこすってよく見る」という意味で、つまり、男子は三日も会わないだけでも、驚くほど成長著しいので、目をこすってよく見なさいということになります。現代なら、心がけ次第で男女にかかわらず、ごく短期間でも成長・進化を遂げることができるはずで

西高生には、西高生活のたった三年間で「三つの力」を身に付けることが期待されています。それは、「確かで高度な学力」「信頼される人間力」「たくましく健やかな心身」です。これらを身に付ける努力を続けながら、西高生は卒業時に「西高力」（自ら考え、課題を発見し、その課題を解決する力）を我がものとしていきます。このような「進化」のプログラムを学校としては意図して教育を行っています。

ところで、「進化」というと、似たような言葉に「進歩」があると思います。では、「進化」と「進歩」との違いはどのようなところにあるのでしょうか。辞書的な意味を総合して考えると、「進歩」とは、より良い状態に進むこと、「進化」とは、より良い状態に進み変化すること、ということになるかと思

つまり、「進化」とは、「進歩」を繰り返した上での結果であり、「進化」するためには、「進歩」を積み重ねていくことが必要になると考えます。したがって、「進化」と「進歩」とは意味の上で次元が違うわけです。

例えば、英語をコツコツと勉強することで徐々に英語

の実力が付いていくことを「進歩」と呼ぶなら、その継続的な「進歩」の結果、ネイティブの英語が聞き取れるようになることが「進化」なのではないかと思

それは、「次元が変わる」ということだと思います。言い換えれば、一段階上の「ステージ」に移行することです。西高生にも、勉強に部活動に前向きに取り組む、「なりたい自分」を目標として、その自分へと「進化」を遂げてほしいと思

結びに、私事ではありますが、三月いっぱい定年退職をし、西高を去ることになります。2年間という短い期間ではありましたが、お世話になったすべての方々に改めて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

1 「予餞会」実施

3月16日（火）、卒業式予行の後、「予餞会」を実施しました。執行部の生徒たちが工夫をし、対面と映像との両面での演出により、3年生を送るにふさわしい素晴らしい会となりました。



舞台上では、ダンスやパフォーマンスなどが披露され、映像では、バンド演奏の他、各部活動の後輩及び転退職された先生方からのビデオメッセージが流されました。

会のしめくくりの3年生の先生方によるパフォーマンスでは拍手喝さいの嵐となりました。

2 第73回「卒業証書授与式」挙行

3月17日(水) 10時から「卒業証書授与式」を挙行しました。県教育委員会の指示により、保護者の方1名のご参加、そしてご来賓のご参列なし、在校生の参加なしという規模を縮小しての式となりましたが、暖かな日差しに恵まれ、素晴らしい式とすることができました。



式は、管弦楽部の演奏に合わせて卒業生360名が入場するところから始まりました。式の模様はオンタイムで、限定公開のYouTubeにおいて、在校生やご参加いただけなかった保護者の皆様などにもご覧いただけるように中継しました。

卒業証書授与では、各担任から360名の卒業生が呼名され、代表生徒に証書を授与しました。

今年の卒業生は、新たな大学入試への対応に翻弄された上に、コロナ禍も加わり、大変な高校生活を送りながらも、本当によく頑張りました。

送辞・答辞・記念品贈呈いずれも代表生徒が立派に務めてくれました。校歌は、壇上に場所を移した管弦楽部の演奏に合わせて、全員で心の中で歌い上げました。

3 学年別「球技大会」実施

3月18日(木)は1学年、3月19日(金)は2学年がそれぞれ「球技大会」を実施しました。



種目は両学年とも、サッカー、バスケットボール、ドッジボールでした。本来なら1・2年生と一緒に3日間にわたって「球技大会」を行う予定でしたが、コロナ禍により日程を短縮し、学年別の実施となりました。

それでも1年生も2年生も全員が全力でプレーをし、久しぶりに校内に活気が満ちた2日間となりました。

4 「進路体験懇談会」実施



3月22日(月)、卒業したばかりの卒業生を招いて、「進路体験懇談会」を実施しました。

東北大学以下、国公立大学17名、早稲田大学以下、私立大学8名の大学入学前の先輩たちから、高校生活の中での学習や進路実現の方法について話してもらい、1・2年生は大いに刺激を受けたことと思います。

5 学年別「3学期終業式」実施



2学年は3月23日(火)、1学年は3月24日(水)に、「3学期終業式」を体育館で行いました。今回は、2学年が3月24日(水)に修学旅行の代替行事として遠足に行く関係で、学年別の実施となりました。

校長講話では、世阿弥の『風姿花伝』にある「一期の境(いちごのさかい)」という言葉をテーマに、17歳・18歳という年齢は、夢や人生の目的・目標を実現する上で、「一生の境目」になるという話をしました。

続いて、生徒指導主任からは、SNSなどで情報発信する時に、人を傷つけることやトラブルに発展することもあるので、十分注意するようにとの話がありました。

その他、2学年の終業式では、「埼玉大学高大連携講座」で2単位を修得した生徒10名に対し、大学からの「修了証書」を授与しました。また、2学年・1学年ともに、「埼玉県書き初め中央展(県展)」の「推薦」と「特選」に入選した生徒たちに表彰状を授与しました。